

20年度第1四半期 決算説明資料

2020年7月
株式会社タダノ

Tadano Ltd.

<注意事項>

- 本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでおります。

✓ Demag事業連結により売上は増加も、製品構成の変化により、売上原価率は悪化。11年度第1四半期以来9年ぶりの営業損失。

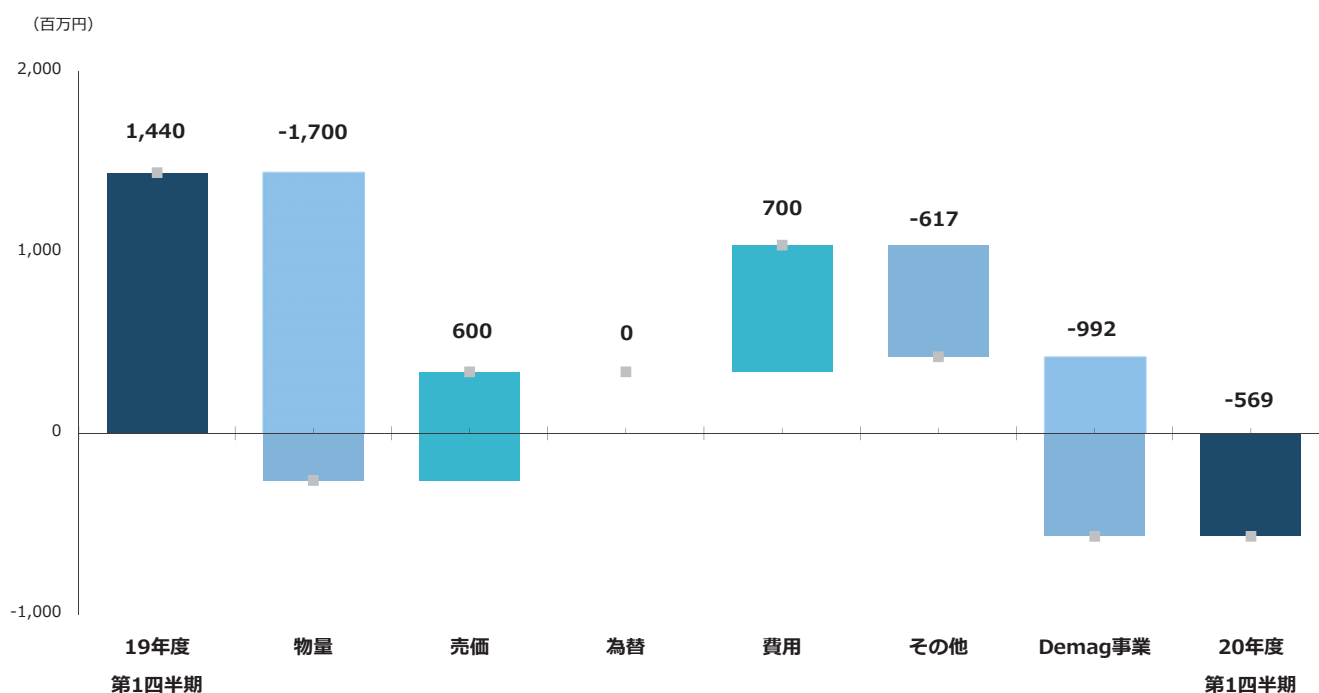
(単位：百万円)

	19年度 第1四半期		20年度 第1四半期		比較 増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	40,376	100%	43,213	100%	2,836
売上原価	30,003	74.3%	33,846	78.3%	3,842
割賦販売利益	-11	-0.0%	-15	-0.0%	-3
売上総利益	10,360	25.7%	9,351	21.6%	-1,008
販管費	8,919	22.1%	9,921	23.0%	1,001
営業利益	1,440	3.6%	-569	-1.3%	-2,010
営業外損益	-84	-0.2%	-227	-0.5%	-142
経常利益	1,356	3.4%	-796	-1.8%	-2,152
特別損益	-1	-0.0%	101	0.2%	103
税引前当期純利益	1,354	3.4%	-694	-1.6%	-2,049
法人税等	723	1.8%	314	0.7%	-408
非支配株主当期純利益	-7	-0.0%	-4	-0.0%	3
親会社株主当期純利益	639	1.6%	-1,005	-2.3%	-1,645

2

営業利益増減要因

✓ 費用は圧縮も、物量の減少・Demag事業連結により20億円減少



3

✓ 売上債権は減少

✓ たな卸資産は増加(1,072億円のうち、TFG189億円、TDG279億円)

(単位：百万円)

	19年度末	20年度 第1四半期末	比較 増減		19年度末	20年度 第1四半期末	比較 増減
手許資金	57,075	60,262	3,186	仕入債務	40,745	37,766	-2,978
売上債権	63,725	45,103	-18,621	有利子負債	63,070	63,883	812
たな卸資産	97,457	107,258	9,800	その他	48,621	44,206	-4,415
その他	11,723	7,310	-4,412	負債計	152,437	145,855	-6,581
流動資産計	229,982	219,935	-10,046	純資産計	159,609	155,475	-4,134
有形固定資産	66,417	65,827	-590	負債・純資産計	312,047	301,331	-10,715
無形固定資産	1,705	1,613	-91				
投資その他の資産	13,942	13,955	12				
固定資産計	82,064	81,396	-668				
資産合計	312,047	301,331	-10,715				

	19年度 第1四半期	19年度	20年度 第1四半期
売上債権回転期間	93.4日	88.7日	95.0日
たな卸資産回転期間	167.8日	135.6日	225.9日
自己資本比率	59.3%	50.8%	51.2%

製品別売上高

✓ Demag事業連結により海外向け建設用クレーンは増加

(単位：百万円)

	19年度 第1四半期	20年度 第1四半期	比較増減	
			金額	増減率
建設用クレーン	23,396	26,567	3,171	13.6%
車両搭載型クレーン	5,584	4,273	-1,310	-23.5%
高所作業車	4,002	3,147	-855	-21.4%
その他	7,393	9,224	1,831	24.8%
合計	40,376	43,213	2,836	7.0%

建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

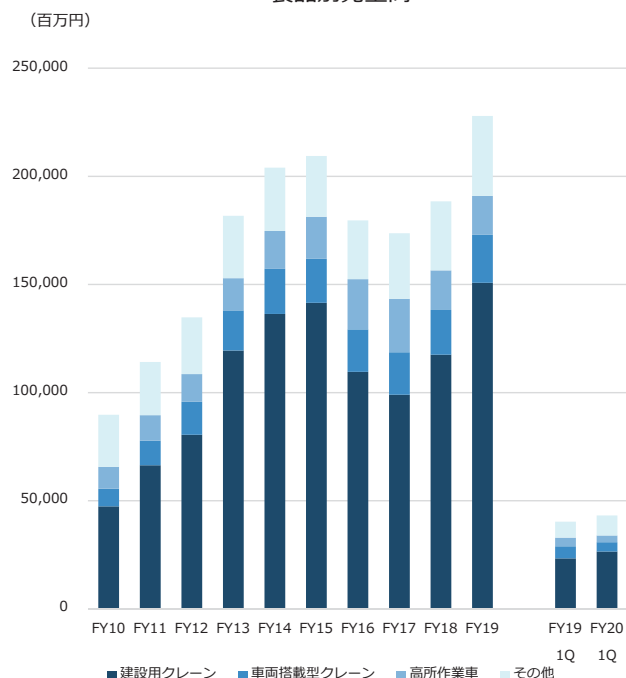
日本	7,728	5,913	-1,815	-23.5%
海外	15,667	20,653	4,986	31.8%
合計	23,396	26,567	3,171	13.6%

為替レート

※1-3月期中平均レート（海外子会社は12月決算のため）

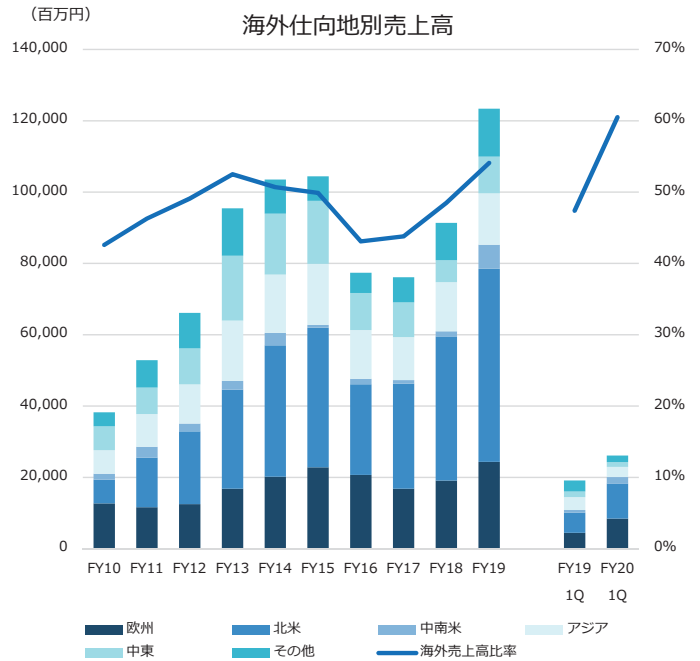
USD	110.20	108.92
EUR	125.15	120.11

製品別売上高



✓すべての地域で需要が減少する中、Demag事業連結により 欧州・北米・中南米において売上は増加

	19年度		20年度		比較増減	
	第1四半期	第1四半期	金額	増減率	金額	増減率
欧州	4,483	8,457	3,974	88.6%		
北米	5,666	9,865	4,199	74.1%		
中南米	726	1,799	1,072	147.8%		
アジア	3,635	2,836	-798	-22.0%		
中東	1,539	1,353	-186	-12.1%		
その他	3,096	1,829	-1,266	-40.9%		
小計（海外計）	19,147	26,141	6,994	36.5%		
日本	21,229	17,071	-4,157	-19.6%		
合計	40,376	43,213	2,836	7.0%		
海外売上高比率	47.4%	60.5%				



中間期（2020年7月31日発表）

（単位：百万円）

	19年度中間期		20年度中間期		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
売上高	100,304	100%	88,000	100%	-12,304	-12.3%
営業利益	7,573	7.6%	-2,100	-2.4%	-9,673	-
経常利益	7,262	7.2%	-2,500	-2.8%	-9,762	-
親会社株主当期純利益	5,064	5.0%	-3,100	-3.5%	-8,164	-

	19年度		20年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金	14.00円	14.00円	0.00円	未定
	年間	28.00円	年間	未定

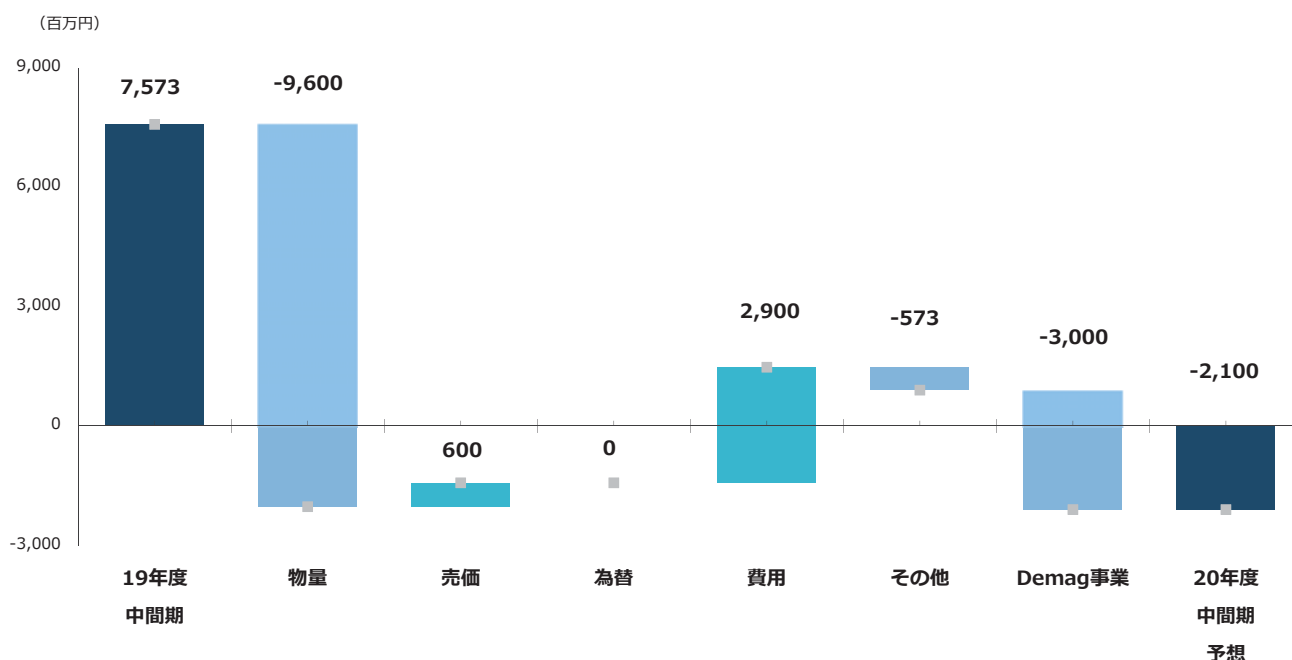
※20年度の通期連結業績予想については、新型コロナウイルス感染症による影響を合理的に算定することが困難なため、引き続き未定とし、今後、算定が可能となった時点で速やかに開示します。

※中間配当は見送り予定。期末配当予想は、引き続き未定とし、今後、通期連結業績予想の開示が可能となった段階であわせて開示します。

8

営業利益増減要因

✓ 費用は圧縮も、物量の減少・Demag事業連結により96億円減少



9

20年度中間製品別売上高予想

(単位：百万円)

	19年度 中間期	20年度 中間期 予想	比較増減	
			金額	増減率
建設用クレーン	64,199	53,800	-10,399	-16.2%
車両搭載型クレーン	11,265	9,300	-1,965	-17.4%
高所作業車	9,507	8,000	-1,507	-15.9%
その他	15,332	16,900	1,568	10.2%
合計	100,304	88,000	-12,304	-12.3%

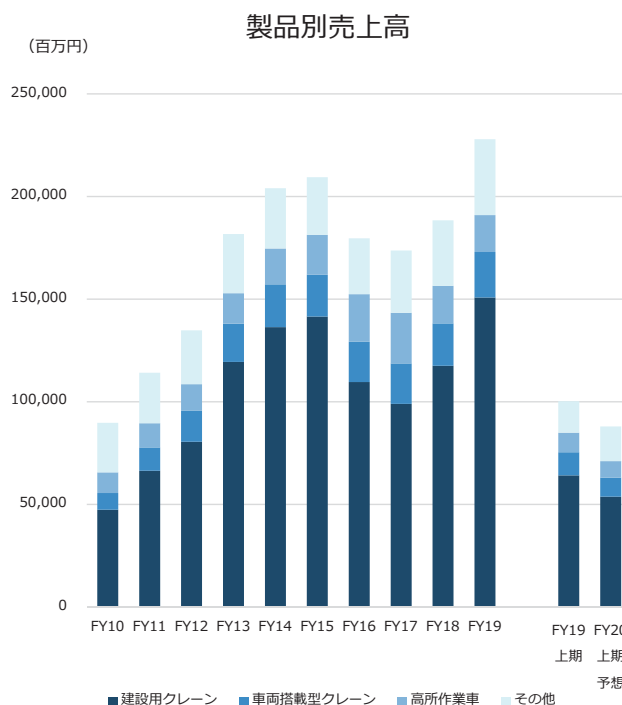
建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

日本	24,984	17,500	-7,484	-30.0%
海外	39,214	36,300	-2,914	-7.4%
合計	64,199	53,800	-10,399	-16.2%

為替レート

※1-6月期中平均レート（海外子会社は12月決算のため）

USD	110.05	108.27
EUR	124.32	119.30



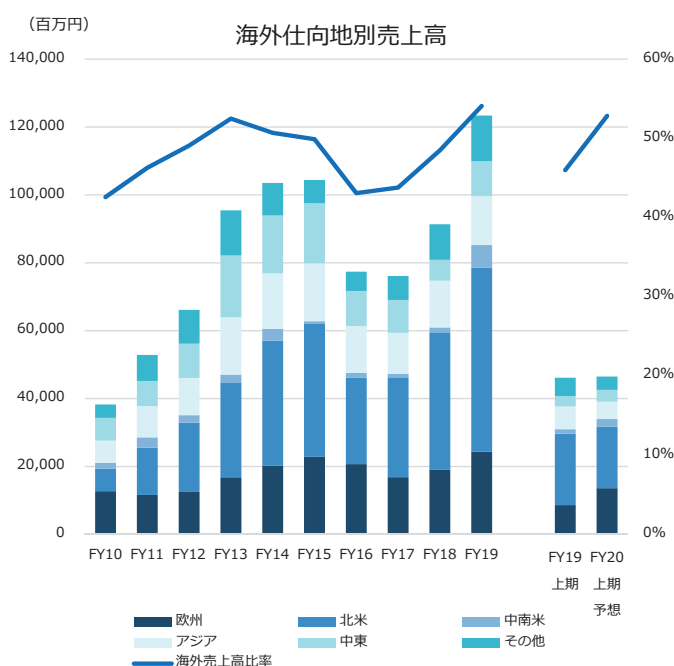
10

20年度中間仕向地別売上高予想

(単位：百万円)

	19年度 中間期	20年度 中間期 予想	比較増減	
			金額	増減率
欧州	8,627	13,600	4,973	57.6%
北米	21,043	18,100	-2,943	-14.0%
中南米	1,317	2,300	983	74.6%
アジア	6,729	5,100	-1,629	-24.2%
中東	3,064	3,500	436	14.2%
その他	5,377	3,900	-1,477	-27.5%
小計（海外計）	46,159	46,500	341	0.7%
日本	54,144	41,500	-12,644	-23.4%
合計	100,304	88,000	-12,304	-12.3%

海外売上高比率	46.0%	52.8%
---------	-------	-------



※上のグラフには日本を含んでおりません。
※その他は、オセアニア、アフリカ、CISを含んでおります。

11

コロナ禍影響と今後の見通し

12

コロナ禍影響（生産・販売等）

【生産活動への影響】

	6月迄の状況	7月以降
日本	大きな影響は出ていない	調達・生産には影響出ていない 需要ダウンへの対応を実施中
ドイツ	3/23～31 : 工場・事務所一時閉鎖 4/1～ : 一部ライン停止を含めた 時短操業	7・8月：一部ライン停止を含めた 時短操業継続 (概ね3割の操業停止)
米国	大きな影響は出ていない	大きな影響は出ていない
インド	3/23～5/6 : 工場・事務所ともに一時閉鎖 5/7～ : 段階的に稼働再開	段階的に稼働率アップ ^o （現状7～8割稼働）
タイ	4/25～5/3 : 工場・事務所一時閉鎖 5/23～5/31 : 工場・事務所一時閉鎖 6月 : 工場・事務所 週1日閉鎖	7月 : 週1回の工場閉鎖を継続 8月 : 通常どおり稼働予定

【販売・CS活動への影響】

テレワーク、電話等の対応により、現時点大きな影響は出ていない。

【開発、その他業務への影響】

テレワーク推進（8割）により、現時点大きな影響は出ていない。

13

【地域別需要（対前年同期比）】

地 域	2020年		
	1月-3月	4月-6月	7月-9月
日 本	-7%	-24%	
中 東	-12%	-28%	
北 米	-16%	-47%	
欧 州	-9%	-23%	
中南米	-15%	-34%	
アジア	-1%	-26%	
その他	-16%	+5%	

第1四半期
 第2四半期

14

今後の見通し（市場全体）

【市場全体の見通し】

- ・ コロナ禍が収束すれば、クレーン業界は比較的早く回復。
- ・ コロナ禍の前と後で需要の巡航速度は大きく変化しない。
- ・ ワクチン開発目途がつくまでは一進一退、厳しさ続く。
終息に1年+回復に1年=計2年は覚悟。
- ・ 各国政府の経済対策の転換に注視。
(国民の生活を支える→景気全体の刺激策への転換)

15

【地域別の足許の状況】

地域	足許の状況
日本	感染爆発無い限り、徐々に回復。
米国	6月下旬からのコロナ第2波の影響により商談トーンダウン。 大統領選終了まで様子見か。
欧州	域内移動制限緩和されるも（6/15～）回復の足取り重い。
中南米	6月以降の感染急拡大により、商談ストップ。
アジア	インドを除き感染拡大は収まりつつあるものの、経済活動再開は段階的 であり、厳しさ続く。
その他	オーストラリア：景気刺激策としての公共工事発注増により需要戻りつ つある。ロシア・中東：油価下落影響もありスロー。

コロナ禍長期化への備え

【新たに資金530億円を確保】

- ・ 短期借入の実行：150億円（6/30 25億円、7/3 125億円）
- ・ 社債発行：100億円（7/10）
- ・ コミットメントライン枠追加：280億円（7/31）

（参考）

- ・ 6月末手許資金残高 602億円 + 7月新規調達分 225億円
- ・ 既存コミットメントライン等の残枠 245億円 + 追加設定枠 280億円
→ 合計1,352億円